

2019 年度春学期 東京学芸大学留学生センター

「日本理解」「多文化共修科目」

時間割・授業概要

2019/03/18

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
I 8:50 - 10:20	多文化共修科目 C 世界の言語と文化 (伊能 裕晃) [N313]				
II 10:30 - 12:00					
III 12:50 - 14:20					
IV 14:30 - 16:00				日本理解 A 教育 (李 紅実) [N207]	
V 16:10 - 17:40		日本理解 G 自然 (青木 久) [N207]		多文化共修科目 A 多文化社会の問題解 決プロジェクト (岡 智之) [N313]	日本理解 E 人文 (高崎 恵) [N107]

- \* 「日本理解」: 留学生のみを対象とした科目で、日本の文化や社会について、留学生同士で議論したり、実技や見学などを行ったりしながら、多角的に学ぶことを目的としています。
- \* 「多文化共修科目」: 学部の正規生（主に日本人学生）が履修できる CA 科目としても同時開設されており、留学生と日本人学生が共に議論しながら、世界の文化や社会についての学びを深めることを目的としています。
- \* 日本語レベルについて: いずれの科目も、原則として日本語プレースメントテストの結果がレベル 1 と 2 の学生を対象としますが、レベル 3 の学生についても授業によっては受講が可能です。初回の授業で担当教員に確認してください。

授業科目名	日本理解 A : 教育
担当教員	李 紅実 (リ コウジツ )
ねらいと目標	この授業は、留学生を対象とする科目ですが、日本人ボランティア学生も加わる予定のため、様々な文化的背景を持つ学生を対象とし、日本語のレベルや専門に関係なく誰でも受講可能な科目です。授業は、比較教育の視点から、日本の教育に関する多様なテーマを取り上げ、講師のトピックス提供から、受講生のグループ討論へ発展させたり、受講生のプレゼンテーションを通して、①日本の教育制度および教育事情に関する基礎的な理解 ②その背景にある日本の文化や社会の理解③日本語での発表のスキルと日本語力のアップを図ることを、ねらいとしています。
内容	この授業では、まず、講師の準備する資料を通して、日本の基本的な教育制度を理解し、映像を見ながら日本の学校の様子に触れます。次に、講師自ら経験した日本の教育現場、その背景にある日本の文化の理解に関して、いくつかのトピックを順に取り上げ（例えば、学校の行事、給食、部活、習いごと、PTA、日本の教師など）受講生に討論のテーマを提供します。その後、少人数グループに分かれ、出身国（出身地域）の教育事情と比較しながら、その回のテーマについて、話し合います。グループ討論には、留学生だけでなく、日本人のボランティア学生にも参加してもらいます。話し合い後、各グループで取り上げた内容について簡潔に発表し合います。日本の教育事情やその背景のある文化を理解すると共に、自らの出身地・出身国に対する理解も深められるでしょう。学期末には、受講生が興味を持つテーマを選び、日本との比較の視点で研究します。有志には研究発表をしてもらいます。学期末研究発表の方法は、まず、講師が「日本における外国人児童生徒の受け入れ政策と実態」のテーマでデモンストレーションします。発表者には、学期末レポートが免除されます。
テキスト	特に定めません。
参考文献	授業のなかで紹介します。
成績評価法	・出席 40% ・授業への取り組み 30% ・学期末レポート（もしくは、学期末研究発表）30%
授業スケジュール	1. オリエンテーション・自己紹介 2. 日本の教育制度、日本の学校の紹介（資料と動画） 3-10 教育に関する個別テーマを取り上げて紹介、意見交換、発表 11. 個人発表デモ：日本における外国人児童生徒の受け入れ政策と実態 12-15 個人発表：自由テーマ
授業時間外における学習方法	
授業のキーワード	比較教育・日本と諸外国の教育事情の比較
受講補足（履修制限など）	
学生へのメッセージ	学部 国際教育選修のボランティア学生（1年生）も参加します。

授業科目名	日本理解 E：人文
担当教員	高崎恵（たかさき めぐみ）
ねらいと目標	(1) 日本の文化状況を理解するための基礎的な知識や枠組を学習します。 (2) 宗教を例にとり、「日本的」とされるものの形成を検討します。
内容	一国の文化の「らしさ」や「伝統」は、時代に適応して変化しなければ生き残っていきませんが、それと同時に、過去からの連続性を保っています。「日本らしさ」や「日本の伝統」は、時代とともに変遷しながら、「古来から」「綿々と続く」日本イメージを創り出しています。 この授業では、前半に、「文化」や「伝統」を語り考えるための基本的な概念や枠組を紹介し、後半では、日本の宗教を例にとって、日本に長く存在してきたさまざまな宗教がどのような変遷を遂げ、現代日本の一角をなしているかを考えます。
テキスト	特に定めません。
参考文献	授業のなかで紹介します。
成績評価法	平常点 40%、個別研究 60%（発表とレポート各 30%）とします。 平常点は授業参加によって評価します。 個別研究は、現代日本の宗教事情のなかから具体例を選び、レポートしていただきます。授業中に口頭発表（20 分程度）したうえで、その内容をレポートにまとめていただきます。
授業スケジュール	受講生の人数や関心や理解度に応じて適宜変更の可能性があります。 1. オリエンテーション 2-3. 異文化理解とカルチャーショック 4-5. 創られた伝統と伝統の再埋め込み 6. 前半のまとめとディスカッション 7-9. 日本宗教史概略 10-12. 現代日本の宗教事情 13-14. 個人発表 15. 総評と総合討論
授業時間外における学習方法	日本人や日本の伝統や文化について考える際、授業でご紹介した分析枠組などを、応用してみてください。
授業のキーワード	文化、宗教
受講補足 （履修制限など）	特にありません。
学生へのメッセージ	日本で感じたカルチャーショックが、日本文化を理解するひとつの手がかりです。日常感じる違和感を見つめなおしてみてください。

授業科目名	日本理解G：自然
担当教員	青木 久（あおき ひさし）
ねらいと目標	日本列島における自然環境の特徴を理解し、出身地域（出身国）との共通性や違いを説明できるようになることを目標とします。
内容	南北に大きく広がる日本列島は、風光明媚な景勝地や温泉などの観光地の多い地域です。一方で、地震や噴火・台風などが多く、自然災害が頻発する地域でもあります。本授業では、まず（１）講師が日本列島における自然環境の特徴を、写真や図を用いて説明します。次に（２）最後のまとめとして、履修者が出身地域（出身国）の自然環境に関する発表を行い、参加者全員で質疑討論をおこないます。
テキスト	特に定めません。
参考文献	授業で適宜紹介します。
成績評価法	授業の復習と感想 60%（毎回行います） 発表 40%（20分程度×1回）
授業スケジュール	講義 1. オリエンテーション（日本の自然に対するイメージ）・自己紹介  2-12. 日本の自然環境に関する講義 毎回、以下のような話題を一つずつ取り上げて講義を行う予定です。 （ただし、履修者との相談の上、理解を深めるための野外巡検を実施する可能性もあります。） ・気候、植生、地震、山地、火山、河川、海岸、自然災害  13-15. パワーポイントによる個人発表 講師が提供した話題を参考に、以下のテーマで20分程度の発表をしてもらいます。 発表テーマ「私の出身地域（出身国）の自然：日本との違いと類似点」
授業時間外における学習方法	授業で学習した内容を復習し、これまでとは異なる見方で、日本の自然を観察してください。
授業のキーワード	自然環境、地形、気候、植生、日本、景勝地、自然災害
受講補足（履修制限など）	日本語だけで授業をおこないます。
学生へのメッセージ	「この景色は今までに見たことがない。とても美しい！」という感動が自然環境の特徴を知る第一歩です。本授業が日本や出身地域（出身国）の自然の魅力をより深く理解するきっかけになることを期待します。

授業科目名	<b>多文化共修科目 A :</b> <b>多文化社会の問題解決プロジェクト</b>
担当教員	岡 智之 (おか ともゆき)
ねらいと目標	多文化共修科目は、日本人学生と留学生をはじめとする様々な文化的背景を持つ学生が、授業という場でお互いに学び交流しながら、新しい気づきを生み出す場です。多文化共修科目 A「多文化社会の問題解決プロジェクト」では、多文化社会に関する理解を深めるとともに、多様な文化を持つ学生の議論や協働学習を通して、多種多様な人々と対等にコミュニケーションを取ることができる能力を高めることを目的とします。
内容	多文化社会となりつつある日本には様々な課題があります。在日コリアン、外国人労働者、難民、外国につながる子どもの教育などの在日外国人問題、沖縄やアイヌなどの国内での民族問題のほかにも、障がい者やセクシュアルマイノリティなどの問題も含め、広く多様性理解の課題としてとらえ、その課題に対して、私たちが何ができるかを一緒に考えていきます。課題解決はすぐにできるものではありませんが、それに向けて、まず知ること、理解することが必要です。さらに当事者の話を聞いたり、現場におもむいたり、またなんらかの発信をすることも課題解決に向けた活動の一つです。この授業では、個別に諸課題を学ぶとともに、課外活動やゲストトークを通して、体験したり当事者に話を聞く機会をたくさん設けています。学生はあらかじめ、自分のテーマを決め、テーマがつながる人とグループでプロジェクトを作って、様々な活動を行い、発表をし、最後にレポートとしてまとめます。課外活動として朝鮮大学校訪問、ミニ・ヒューマンライブラリーなどを予定しています。
テキスト	特に定めません。
参考文献	有田佳代子他編著『多文化社会で多様性を考えるワークブック』研究社, 2018
成績評価法	平常点 30% (授業の最後にコメント用紙提出)、課外活動及びフィールドワーク 10% (感想文を含む)、最終発表 30%、最終レポート 30% (最終レポートは 8 月 8 日 (木) 締め切り。A4 用紙 3 枚程度、3000 字以上は書くこと。)
授業スケジュール	1. オリエンテーション、 2. 課題の提示とプロジェクト構想 3. 在日コリアン問題 4. 難民問題 5. 沖縄から平和を考える、6. 課外活動振り返り、討論 7. 障がい者 (ゲストトーク) 8. トランスジェンダー講義 (ゲストトーク) 9. 前半振り返りとプロジェクトの話し合い 10. 私の多文化 (個人発表) ① 発表準備 11. 私の多文化 (個人発表) ② 発表準備 12-14. 最終発表①②③ 15. まとめ ワールドカフェ 「多文化社会の課題解決に向けて」
授業時間外における学習方法	学内や地域の多文化共生に貢献するためのプロジェクトなので積極的に課外活動に参加してください。授業外の調査やグループワークもあります。
授業のキーワード	多様性理解、多文化共生、プロジェクトワーク、ヒューマンライブラリー
受講補足 (履修制限など)	日本語だけで授業をやるため、原則として、プレースメントテストでレベル 1, 2 の学生に限定します。
学生へのメッセージ	日本人学生と積極的に交流したい学生を歓迎します。

授業科目名	<b>多文化共修科目 C：世界の言語と文化</b>
担当教員	伊能裕晃 (いのう ひろあき)
ねらいと目標	世界の言語と、その言語と深く関わる文化について、様々な言語的背景を持つ学生（日本人学生、外国人留学生）と交流しながら学んでいきます。互いの議論や協働学習を通して、異文化コミュニケーション、外国語学習、外国語教育、等の基礎となる、言語と文化を反省的に捉える力を養うことをこの授業の目標としたいと思います。
内容	自らが使用している／学習している日本語を一つの外国語と見なし、様々な言語と比較しながら、その特徴と世界の言語との違いを考えていきます。音声、表記、語彙、文法、コミュニケーション等について、毎回、グループに分かれて、具体的に言語を分析、考察する課題を行い、討論の中から気づいたことを発表し、それをまとめたミニ・レポートを作成します。学期の最後に、自分の学習したことのない言語の一つを選び、日本語との違いを分析して、プレゼンテーションを行い、それをまとめたレポートを出す課題があります。
テキスト	特になし。
参考文献	必要に応じて、教室で紹介します。
成績評価法	出席、授業への参加度 40%、授業中の課題 30%、レポート 30%
授業スケジュール	全体的なオリエンテーションの後、日本語と世界の言語の音声、表記、語彙、文法、コミュニケーション等について、毎回、興味深いトピックを一つ取り上げ、授業を行います。 詳細な予定は、学期開始後、履修者の言語的な背景などを踏まえて決めたいと思います。 途中、グループで調べたことを発表する機会を2～3回設ける予定です。
授業時間外における学習方法	自分が使用している／学習している言語を使って、普段自分がどのようにコミュニケーションをしているかを振り返る。各国語の初級向けの教材を読んでもみる。
授業のキーワード	言語、文化
受講補足（履修制限など）	日本語だけで授業を行うため、外国人留学生は、原則として、プレースメントテストでレベル1，2の学生に限定する。
学生へのメッセージ	この授業自体が異文化コミュニケーションとなるよう、授業への積極的な参加を求めます。